

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

## H. pylori 感染の診断と治療のガイドライン 2016 改訂版

日本ヘリコバクター学会ガイドライン作成委員会（委員長：加藤元嗣 独立行政法人国立病院機構 函館病院）

先端医学社、2016年8月1日 第1版第1刷発

### ■1 漢方薬

疾患：

機能性ディスぺプシア

引用

1) Tack J, Talley NJ, Camilleri M, et al. Functional gastroduodenal disorders. *Gastroenterology* 2006; 130: 1466-79.

2) Suzuki H, Nishizawa T, Hibi T. Therapeutic strategies for functional dyspepsia and the introduction of the Rome III classification. *Journal of Gastroenterology* 2006; 41: 513-23.

有効性に関する記載ないしその要約：

H. pylori 除菌が強く勧められる疾患の項の『機能性ディスぺプシア (H. pylori 関連ディスぺプシア)』の解説に、下記の記載がある。

『その治療法については、酸分泌抑制薬、胃運動機能改善薬、漢方薬、抗うつ薬などが検討されている。』